

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 縄文

いろんな考えがあふく面白い
いろんな人がいるから楽しい

No. 710

2025年 8月1日

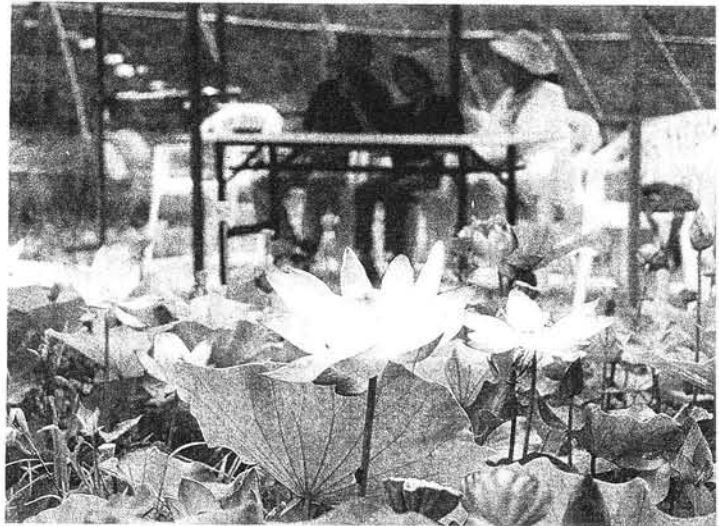
編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

も・く・じ

- 最高裁 勝利判決のお知らせ ^{ペジ} 2
- 今後の米需給 4
- ロシア情勢と日本の選挙 7
- 「緋の河」「孤蝶の城」 8
- お便りから 12
- 種の保存法改正に向けて① 16
- 企業のESG・通信簿 17
- 正士さんを送る 18
- 『続・日本軍兵士』(中) 20
- 関電 原発新設の方針 24
- 板室温泉 幸乃湯 ⑤ 25
- け・い・じ・ば・ん 26



7月23日「中日新聞」

竹中さん、スズキさんが中心となり、地域の人々をつくりあげたハス田が、中日新聞で紹介されました。熊谷道子さん宅の新聞を、命屋千寿さんが送って下さいました。

マイナ保険証への移行に伴う弥縫策

資格確認書	マイナ保険証 を持たない人	→ 75歳以上は 全員交付
期限切れの 従来保険証	保険適用 不可	→ 可 ※2026年 3月まで
資格情報の お知らせ	マイナ保険証 とセットでな ければ不可	→ 単体で可 ※2026年 3月まで

メール配信をご希望の方は、

<suzukikosei.san@gmail.com>へ。

三宅伊都子さんが

対応して下さいます。

↑
7/30 東京新聞
題 字 故 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト 故 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リングラフ RZ 330

※この号の切手は、ライア・花

正士さんを送る

7月21日(月)、康江、原田、山崎さんと4名、天竜線「遠州森」駅で久米さんに迎えられ、いったん久米さん宅へ。

着替えをし、大石さんの車に原田さんと乗せてもらい、2台で天竜二俣の青場へ。大勢の人が集まっており、焼香が始まっていた。尾上美智子さん、水窪の昔乙女4名も。(男性は省略) 静岡の人でぼくが知る人はほとんど参加していた。顔が合わなかったのは、永島加寿A、伊藤英雄、青山さんくらい。

焼香し、柩の中の正士さんと対面。1ヵ月前に見舞った時とは見違えるほど頬がそばけていた。口から食べられなくなった後は点滴を拒んだという何日かが、すべてを燃やし尽くしたのだろう。信念を揺るがない生き方を貫いた正士さんらしい潔い姿だった。

啓史さん、めぐちゃんなど親族の方に挨拶。とりわけめぐちゃんは、ホスピスに近い別の病院に看護師として動いているだけに、足繁く見舞い、介護したことだろう。正士さんも、どれほど強く、嬉しかったことか。竹細工の教室で遇れた若林さんも到着。

駐車場が限られていたこともあり、長居はせず、久米さん、康江さん、原田さん、山崎さんと5名、山崎さんが予約してくれた近くの尾張屋旅館でささやかな懇談会。

ここはもと頃、ACAP(消費者関連専門家会議)の「環境」グループ10名ほどが、正士さんの山林で作業をした際、宿舎にしていた。毎年、一夜、正士さん、深澤明男さんにはくが懇談会に加わった。その時、心臓の悪い女将が酸素ボンベを引かずしながら給仕をしてくれたが、この夜も一人、ボンベは別のところに置いて世話してくれた。

女将の話では、この宿、来年で閉じるという。赤字続きで、やっと買手が現われ、あとは下宿になるという。

ここ天竜二俣は、天竜川を利用した木材の集散地。昔はさぞ賑わったことだろう。建物そのものは、木材の町に似合わず、柱も間伐材のような節が残る三ヶ角だが、ところどころにオヤと思わせる部分が残る。ぼくが気に入ったのは、風呂場のタイルだ。

食事が終ると、康江さんは久米さん宅へ。男3名、ここに泊まる。

7月22日(月)、晴。ゆっくり宿を出て、天竜二俣駅まで送ってもらう。いま70歳という女将。東京・駒込の親類を訪ねた話をしてくれた。以前、米屋をしていたそうで、米価が高騰した最近、米の「ノ合買い(売り)」が始まったという。そのため包装までできたそうだ。

駅で手を振って別れる。「尾張屋もこれで終りや」

天浜線の車内で運転士に車輈の長さを尋ねた。往きの若い運転士は「22~23mかな」という。そんなことないって。いつもの在来線は20m、新幹線が25mだから、もっと短いはずだ。帰りの年輩の運転士は、即座に「18.5m」と答えた。興部で山仕事の記事の中で、高所作業車の到達長17mは、天浜線の車輈と同じくらいではないかと思いたが、正しくは18.5mだった。



その後知ったが、この日の朝、康江さんと永窪の4名がハス田見物をしたそうだ。前日、久米さん宅へ向かう途中に見たハス田は、きれいな花がいくつも咲いていた。竹中さんと久米さんの手で、屋根付きの見物席が用意されていた。(表紙を見てください。奥の人影は、康江久米さんと?さん)

また、久米さんと康江さんは、告別式にも参加したそうだ。菅原観一さんと会われたとも。

久米さん、猫の手の供花の世話などいろいろお世ゆになりました。

届いたメールから

- ◇ 正士さんのお葬式 お疲れさまでした。私も皆さんと同じ場所でお別れしたかったです。正士さんを偲ぶ機会がありましたら、今度はぜひ参加させていただきたいと思います。 三宅伊都子さん